



鞍手町立小学校のあり方検討便り

【 令和4年11月15日 令和4年度第4回検討委員会開催分 】

【 令和4年11月24日 令和4年度第5回検討委員回開催分 】

第11・12号
令和4年12月14日

第4回検討委員会では、3つに絞った建設候補地へ統合小学校を建設する場合を検証し、5つの項目で比較した資料（裏面を参照ください。）により説明を行いました。委員からはたくさんの質問が出され、各候補地の現時点での課題やメリットなどについて協議しました。

第5回検討委員会では、各委員の建設候補地に対する評価と意見を集約しました。

○ 統合小学校の建設候補地について（第4回検討委員会）

資料では、鞍手中学校敷地、剣南小学校敷地、旧鞍手北中学校の3つの建設候補地を、①敷地特性、②計画面、③工事面、④コスト面（推計）、⑤通学面の5つの項目で比較検証しています。

鞍手中学校敷地はコスト面にメリットがあるが敷地特性に課題があり、剣南小学校は敷地特性にメリットがあるが工事面に課題があり、旧鞍手北中学校は計画面にメリットがあるが通学面に課題があるなど、全ての建設候補地に一長一短があります。

委員からは各候補地に対する多くの意見が出されましたが、話し合いにより全員が納得した上で、検討委員会として一つの建設地を導き出すことは難しい状況となりました。

○ 検討委員会としての建設候補地に対する考え方

検討委員会での協議内容や教育委員会への提言は、保護者や地域の方の考えを可能な限り鞍手町の教育行政へ反映させるための重要なものです。

一方で、統合小学校の建設地は、教育行政を担当する教育委員会が、まちづくりの方針や費用面等の鞍手町との協議も踏まえ、その責任と権限において決定すべきものです。

検討委員会で示された資料は、現時点で可能な比較検証結果であり、各建設候補地に対して考え得る全てのシミュレーションがなされた訳ではありません。こうした状況を踏まえると、検討委員会としては、1つの建設地を導き出すのではなく、各委員の建設候補地に対する評価や意見を集約し、その結果を教育委員会へ提言することとしました。

○ 統合小学校の建設候補地について（第5回検討委員会）

第4回検討委員会に引き続き、各建設候補地に対する協議を行いました。前回見えてきた各建設候補地が抱える課題に対しての、現時点での教育委員会の対応策の確認等も行いました。

最後に、各委員が3つの建設候補地に対して、建設地に相応しいと考える方から順に、◎○△で評価し、各候補地の評価する点や懸念点を所定の投票用紙に記入し、無記名で投票しました。

次回の検討委員会で、投票結果を◎を3点、○を2点、△を1点として各建設候補地の点数を集計した上で、各委員から出された意見と併せて、教育委員会への第3次提言書を作成することとしました。



発行責任・編集

鞍手町教育委員会 教育課教育環境整備係

E-mail : gakkoukankyoku@town.kurate.lg.jp

この便りは、町のホームページに掲載しています。

Tel 0949 - 42 - 7202

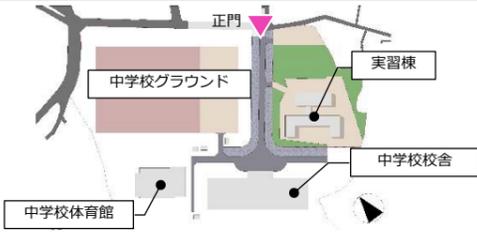
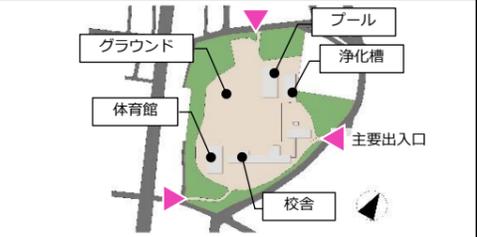
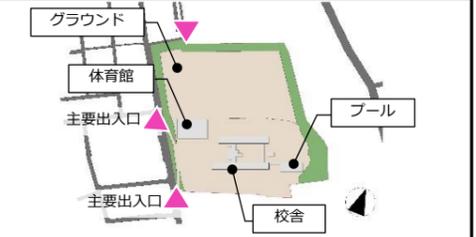
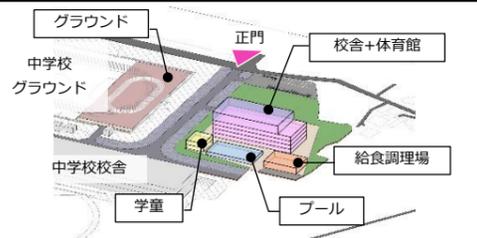
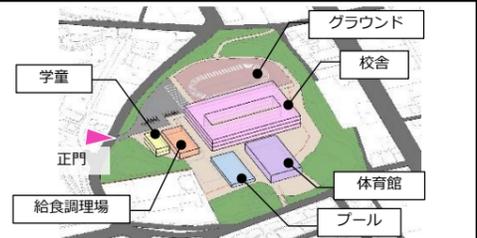
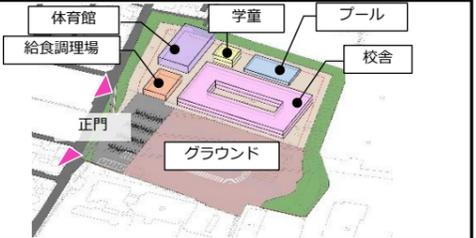
Fax 0949 - 42 - 0149

<https://www.town.kurate.lg.jp>



HP QRコード

統合小学校建設候補地比較表

	鞍手中学校敷地	剣南小学校敷地	旧鞍手北中学校敷地	
①敷地特性比較				
敷地現況図				
敷地面積	約22,600㎡	△ 約36,100㎡	○ 40,024㎡	
敷地の余裕・計画のしやすさ	校舎の高層化が必須になる	△ 既存校舎を避けた校舎計画となる	△ 障害物が少ないため校舎計画が容易	
道路への出入の容易さ	東側：容易に出入可能 西側：容易に出入可能	○ 北側：容易に出入可能 南側：切り返しが発生※大型車	△ 大型車の同方面への出入ができない 可能性がある(スロープ運用による)	
法的な規制	調整池やグラウンドエリアで工事が発生する場合、従前の開発許可に影響	△ 用途地域の高さ制限(10mまで)緩和に向けた各種手続きが発生	△ 現時点で特段なし	
敷地の状況	現在教育施設研究所として使用中	○ 現在小学校として使用中	○ 旧炭鉱地で坑道対策が必要	
立地適正化計画	都市機能誘導区域	○ 都市機能誘導区域	○ 居住誘導区域	
総合評価	小学校用地としては他事例と比較しても敷地がかなり狭小になる	△ 既存校舎を避ける必要があるため校舎や体育館の位置が現在のグラウンド側になる	○ 敷地に最も余裕があるが、坑道対策が必要であり、スロープや前面道路幅員がないため車両の出入りに課題がある	
②計画面比較				
計画概要図				
校舎と体育館	校舎階数	5階建以上(5階に体育館)	△ 3階建以上	○ 2階建以上
	教室の採光	一部無採光になる部屋がある	△ 全教室南北面での採光確保が可能	○ 全教室南北面での採光確保が可能
	体育館の位置	校舎上階への配置	△ 校舎上階・地上配置どちらでも可	○ 校舎上階・地上配置どちらでも可
屋外施設	プール	校舎上階・地上配置どちらでも可	○ 校舎上階・地上配置どちらでも可	○ 校舎上階・地上配置どちらでも可
	グラウンド	・中学校グラウンドの一部を利用 ・児童の敷地内道路の横断が発生	△ 150mトラック程度を確保可能 ・校舎に隣接させて配置可能	○ 150mトラック以上を確保可能 ・校舎に隣接させて配置可能
付帯施設	給食調理場の位置	敷地内別棟	○ 敷地内別棟	○ 敷地内別棟
	放課後児童クラブ	2階建以上	△ 2階建以上	○ 平屋で計画可
総合評価	校舎が5階建て以上になり、ゆとりが少なく無採光の部屋が出てくる	△ 計画地がグラウンド側に限定される点を除けばある程度自由に計画が可能	○ 敷地内にゆとりがあるためある程度自由に計画が可能	
③工事面比較				
工事車両動線	既存出入口を利用(中学校動線と区画)	△ 既存出入口を利用(小学校動線と区画)	△ 既存出入口を利用(周辺道路が狭小)	
工事中の安全性	既存中学校との間に安全区画が必要	△ 既存小学校との間に安全区画が必要	△ 利用施設がないため安全区画が不要	
工期の調整	既存施設解体時期の調整が必要	△ 綿密な建替計画と工期を要する	△ 既存施設との兼ね合いがないため容易	
総合評価	敷地内に中学校があるが、比較的安全に工事エリアと区分可能	△ 最も工期が長く、代替機能確保、安全管理などの課題が多い	○ 敷地内に利用施設がないため最も工事が行いやすい	
④コスト面評価※推定				
整備費	5,600,000,000 円	5,900,000,000 円	6,200,000,000 円	
補助金・交付税措置	3,900,000,000 円	3,900,000,000 円	4,200,000,000 円	
鞍手町実質負担額	1,700,000,000 円	2,000,000,000 円	2,000,000,000 円	
総合評価	○	△	△	
⑤通学面比較				
通学路の整備	鞍手中学校、剣南小学校、剣北小学校の通学路として大部分が整備済	○ 鞍手中学校、剣南小学校、剣北小学校の通学路として大部分が整備済	○ 現在、通学路として想定されていない区間(古月・新延小→統合小)の大規模な整備が必要(用地買収による歩道設置・拡幅)※スクールバスの運行による回避は可能	
スクールバスの運行	鞍手中学校のスクールバスと同様の運行ルートとなる	○ 鞍手中学校のスクールバスと同様の運行ルートとなる	○ 鞍手中学校のスクールバスと異なる運行ルートとなり、剣南小校区への運行も必要	
総合評価	○ 剣北小⇔剣南小校区境界部分の通学路整備とスクールバスの運行で通学可能	○ 剣北小⇔剣南小校区境界部分の通学路整備とスクールバスの運行で通学可能	○ 通学路として県道を含めた大幅な整備が必要で費用と整備期間が必要	